

■ エンジン関係

現 状	原 因	処 置
スタータが回らない場合	(1) 間違ったキーでエンジン始動しようとしている。 (2) 金属部品（キーホルダ等）をキーに取付けている。	(1) 【キー間違い】 とメータパネルに表示されるので、正しいキーでエンジン始動する。 (2) 金属部品をキーから外してエンジン始動する。
始動困難な場合	(1) 燃料が流れない。	(1) フューエルタンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除く。 (2) 燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換する。
	(2) 燃料送油系統に、空気や水が混入している。	(1) パイプ及び締付けバンドを点検し、損傷があれば新品と交換または補修する。 (2) 空気抜きをする。 （【燃料系統のエア抜き】の項を参照）
	(3) 寒冷時にオイル粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	(1) ラジエータに熱湯をそそぐ。
	(4) バッテリーがあがり気味で、回転力が弱くなって圧縮を越す勢いが無い。	(1) バッテリーを充電する。
出力不足の場合	(1) 燃料不足。	(1) 燃料を補給する。
	(1) エアクリーナが目詰まり。	(1) エレメントを掃除する。
突然停止した場合	(1) 燃料不足。	(1) 燃料を補給する。
排気色が異常に黒い場合	(1) 燃料が悪い。 (2) エンジンオイルの入り過ぎ。	(1) 良質の燃料にする。 (2) 正規のオイル量にする。
水温計の表示が [H] を示す時（エンジンのオーバヒート）	(1) ウォータポンプのシール不良。 (2) ファンベルトの伸び、または切断。 (3) サーモスタットの不良。 (4) 冷却水の不足。 (5) ラジエータネット、ラジエータフィンのごみ詰まり。 (6) ヘッド、クランクケースの錆で冷却水が汚れている。 (7) ラジエータキャップの不良（蒸発）。 (8) 冷却水通路の腐食。 (9) 連続過負荷運転。 (10) ヘッドガスケットの破損（冷却水の減少）。 (11) エンジンオイルの不足。 (12) 燃料噴射時期の不良。 (13) 燃料が悪い。	(1) 交換する。 (2) 調整、または交換する。 (3) 交換する。 (4) 規定量まで補給する。 (5) 清掃する。 (6) 冷却水交換、防錆剤投入する。 (7) 交換する。 (8) 洗浄する。 (9) 負荷を軽減する。 (10) 交換する。 (11) 正規のオイル量にする。 (12) 調整する。 (13) 良質の燃料にする。

■ 油圧関係

作業機（ブーム、アーム、バケット）旋回，走行，ドーザの力不足，速度が遅い，又は，動かない。	(1) 作動油量の不足。 (2) ホース，配管継手部よりの油もれ。	(1) 作動油を補給する。 (2) 増締め，または交換する。
---	--------------------------------------	-----------------------------------

■ 走行関係

うまく走行しない	(1) クローラに石などがかみこんでる。 (2) クローラの張りすぎ，ゆるみすぎ。	(1) 除去する。 (2) 調整する。
----------	--	------------------------

■ 制御関係

作業機（ブーム【上げ】，又はアーム【かき込み】，又はオフセット【左】）が動かない（同時に液晶表示部に【〇〇異常】と表示され，ブザーがピ，ピ，ピッ，と鳴る。）	(1) 配線の断線・短絡。 (2) 角度検出装置の破損又は位置ずれ。	(1) 交換する。 (2) 購入先又は，当社指定サービス工場に連絡する。
干渉回避制御が効かない（同時に液晶表示部に【〇〇異常】と表示され，ブザーがピ，ピ，ピッ，と鳴る。）	(1) 非常運転モードになっている。	(1) 一旦スタートキーを【STOP】にすることにより通常運転にする。